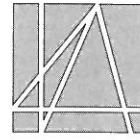


清流



No. 23

●発行 社会福祉法人 かなな会
〒375-0014 群馬県藤岡市下栗須887-1
TEL 0274-24-5885 FAX 0274-24-6855
E-mail kannakai-98@triton.ocn.ne.jp

平成23年度を迎えて

かななの里施設長 島野信美

かなな会の核となるかななの里がスタートして丸12年経ちました。お陰様で大過なく13年目を迎えられること、支えてくださった大勢の皆様へ感謝申し上げます。

23年度は、3月11日の東日本大地震と福島県原発の事故の収束のつかないまま、不安な幕開けとなりました。何より被災された方々のことを思うと、私たちはその思いを共有し、できることは何かを考え続け、実行する義務があります。

佐々木正美先生が、「自閉症、発達障害の人を案じる」との文章を新聞に投稿していました。混乱が大きい時には部屋の隅をついたで仕切るなどして、隔離でなく保護をしてほしいと。周囲に遠慮、車中泊一週間などの記事を見ると、突然の環境の変化に家族も本人もつらい思いをしているのだろうと心痛みます。

かななの里も計画停電の

ため、入浴やドライプの変更があり、事前提示をきちんとすることで、入所者の混乱を避けることができました。保護者も心配し、ソーラー式の懐中電灯や電池を届けて下さり、ありがとうございました。

23年度も利用者の生活の質の向上のために、応えられる実力をつけていきたいと思えます。さらに、長年食料や電気だけでなく、工業製品の大事な部分を支えてきた東北の人たちへの恩返しのために、できる支援を続けていく一年にしたいです。



玄関横のゴーヤ（やがて緑のカーテンに）

かななの里絵画クラブ

定期的に展示されています。

昨年より、しののめ信用金庫藤岡営業部と藤岡公民館に展示してもらっています。



4月、11月(しののめ信用金庫) 5月、12月(藤岡公民館) 予定



園内の満開のしだれ桜の下をウォーキング

桜の下で

かななの里にも春がようやく来て、ホッとしました。(4月)



屋上で隣家の桜を見ながら花見をしました。(4/10)

22年度を振り返って

かななの里

主任支援員 黒澤 純憲

入所者の生活に大きな変化はありませんが、現場職員の勤務体制が宿直から夜勤に変わったことが一番の大きな変化でした。

最初は戸惑いもありましたが、徐々に夜勤のメリツトが見えてきました。夜間の睡眠状況、覚醒状況の把握がより正確にできるようになったということです。それによって、日中の行動が本人にとって無理のないような配慮が出来たり、夜間の排泄の支援が以前よりより適切に提供できるようになりました。

かななの里も今後、障害の重度化、高齢化に伴い、夜間の支援が大変重要になってくることを日々感じています。私たち支援職員は、利用する人が心身に豊かな生活を送れることを目指して、質の高い支援が提供できるよう日々勉強しながら、一日一日を大事にしていこうと思います。

協力医 石川 準二 歯科医師

改善された点については、男子の口腔ケアで、食後ブラッシングにおいて、入所者を床に仰臥位にすることにより頭部が固定されたこと、又、口腔全体を観察できる位置で実施されることによりプラーク(歯垢)の付着が減少した。ただし、誤嚥の危険がある人については側臥位にするなど配慮が必要と思われる。今冬にはインフルエンザの発生もなかったようなので、これからも継続的に実施していただきたい。

※かななの里では石川先生から月一、歯科衛生士さんより週一の摂食機能療法のご指導を受けています。23年度より摂食、えん下委員会を結成し、より効率的な利用者への反映を目指しています。



マロニエ

サービス管理責任者

松井 保隆

一年前のマロニエ開所日は、利用者・職員とも緊張の一日で、慣れない場所、作業に戸惑ったことを思い出しました。今ではすっかりマロニエの活動に慣れ、にぎやかすぎるほど元気に過ごされています。

作業以外に楽しみとなるものは何か、それぞれが楽しめる余暇、休憩の過ごし方を考え、実行しているところ。6月に行ったバレーキューでは騒がしい場面が苦手と一緒に過ごせないと思われていた人が皆と同じグループで楽しめたり10月のグループ日帰り旅行では普段見られないリラックサした表情や行動が見られ、1月のサンピアにて行われた新年会では保護者と共に、一緒に食事やカラオケを楽しみました。沢山の笑顔が見られた一年でした。今後は作業面では内職作業、作品作りにより力を入れ、自主的に参加できる形を考えていきたいと思えます。

(平成22年10月～平成23年3月までのおもなできごと)

- 10月 定期健康診断
フットベースボール大会
避難訓練
秋のお楽しみ音楽会
- 11月 秋のアート展 (商工会議所)
- 12月 グループ旅行(マロニエ) 県指導検査
アート展(藤岡公民館)
クリスマス会、バイキング、もちつき
冬休み
冬季帰省(29、1/4)
- 1月 第11回地域支援セミナー(石川京子氏)
かなな会理事・評議員会
新年会
- 2月 ゆうあいフェスティバル
節分(豆まき)
研究発表会(松浦)
アートフリユット・ジャポネ凱旋展(大津)
かりん・相談事業監査
あすなろ祭
- 3月 県立高崎高等養護学校二年生見学
新人職員研修
かなな会理事・評議員会(予算・事業計画)
お楽しみ班外出

マロニエ

かななの里



新年会(1月)



秋の旅(11月)



市商工会議所で秋のお楽しみ会(10月)



フットベースボール大会(10月)

藤岡市福祉支援センター

もくせいの

① 就労移行支援事業

所長
サービス管理責任者

村田 次男

二年間の有期限計画の中で一般雇用を目指す就労移行支援事業では前半の一年を経過し、事業活動におけるプロセスは試行錯誤をしながらも、一年間過去に全く経験のない事業活動が展開できました。

利用者は平成22年4月に計8名でスタートし、具体的な事業内容としては、一般雇用に必要なスキルアップを目的とした所内での就労プログラムや就労支援センター・トータスと連携してのSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）の定期的な実施や雇用を目的とした職場実習や障害者就職面接会への参加などの求職活動をしました。また、県の職場見学促進事業を活用して、B型事業とともに会社見学を行い、障害者雇用を実践する職場を見学させて頂き、一般雇用をめざす利用者の意識の向上を図ることができました。

2年目となる23年度は更なる障害利用者の方への就労に対する実践力を養い、一般雇用を目指してスキルアップできるように、支援体制の充実を図ってまいります。

主任支援員 安積 美紀

② 就労継続支援 B型事業

主任支援員 安積 美紀

当事業では利用者の皆さんが仕事に対する意欲や充実感を持ち、少しでも自立した生活が送れるよう工賃の倍増を目指して取り組んでいます。幸いご理解を頂いた企業より継続的にお仕事を頂き、忙しい毎日を送っていますが、それだけではなかなか目標達成できません。

昨年より、除草作業や清掃作業などの所外請負作業や、繁盛期に企業へ出向いて作業を行う企業内授産活動など新たな取り組みを始め、工賃アップにつなげています。これから庭の草も気になる季節。まだまだ十分な仕事は出来ませんが、真面目に心を込めて作業をします。草むしりのご要望がありましたら、お気軽にお声がけ下さい。

③ 生活介護事業所

主任支援員 河田 正宣

平成22年度に新法へ移行したことにより、生活介護の作業班の利用者も、月2回PTによる理学療法を受けることができるようになりました。身体障害の利用者さんにとって、理学療法やリハビリは、身体機能の維持・回復にはとても大切な事なので、大変良かったと思います。また、同じように介助入浴も利用できるようになりました。

日帰り旅行を全事業合同で行うこともできました。



▶ 合同での日帰り旅行

ケアホーム

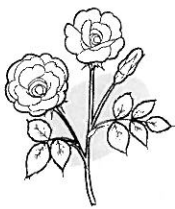
かりん

塩野 光枝

平成22年度より、ケアホーム「かりん」、地域ホーム「クレスト」が同一事業所となり、「かりん」が「かりん1」、「クレスト」が「かりん2」となりました。今年度の大きな特徴は、夜間支援をかなの里にお願いして、11月より週一回、夜9時より翌朝7時まで、かりん1に泊まり、かりん2も巡回支援することになりました。

「トイレに起きたら、〇さんがいた」「のぞいてみたら勉強していた」等々、朝、玄関に代わるがわる出てきて報告を受けるその顔は、安心感と喜びに満ちた笑顔でした。

夜間支援は大変でしょうが、それに応えて、何事もなく平穩無事な日々を過ごすことを、みんなで助け合い、協力していきます。



〈事業報告〉

(平成22年10月)

平成23年3月

10月・日帰り旅行 (東京、浅草)

インフルエンザ予防接種

11月・夜間支援始まる

12月・忘年会、クリスマス会、もちつき

1月・安中もりの家 宿泊旅行

新年会

温井川ごみ拾い

2月・からっ風の会新年会 温井川ごみ拾い

3月・県監査

あすなる祭

温井川ごみ拾い

全員集合!



相談支援事業

原 吉信

相談支援事業とは、障害のある方が、地域の中で安心して生活できるように、また、自立した生活を送るために、相談支援専門員が生活全般についての相談に応じ、福祉サービスの利用方法や施設の紹介等を行う事業です。

また、行政、福祉、医療、教育等関係機関と連携を図りながら、ご本人やご家族だけでは解決されない問題等について、ご本人の様子や生活状況に応じた各種サービスの利用につなげる支援を行います。

かな会は、かなの里相談支援事業所、藤岡市相談支援事業の2ヶ所の指定をとり、藤岡市、神流町、上野村の相談に当たっています。今年度からは相談員も2名体制になり、藤岡担当が原吉信、多野郡担当が君野文子になります。宜しくお願い致します。



原 吉信 君野 文子

障害者就業生活支援センター

「フーズ」

所長 田沼 俊之

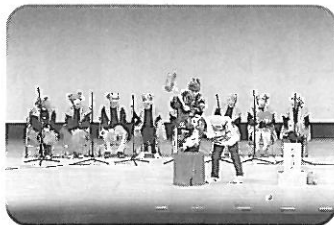
当所は平成二十年度・二十一年度の二年間は、群馬県より受託した障害者就業支援センターとして活動し、二十二年年度から厚生労働省及び群馬県より受託した障害者就業・生活支援センターとして活動しています。主な担当地域は多野郡・藤岡市・甘楽郡・富岡市となっており、三名の常勤職員と一名の非常勤職員で、行政・医療・教育・福祉等、関係機関との連携を密にしなが、障害者(種別問わず)と企業双方の支援をしています。

二十二年度の主な実績ですが、年度末での登録障害者は身体三十五名・知的七十九名・精神一〇二名・その他(発達障害)四名の合計二二〇名となっています。障害者に対する支援は一八二四件、企業に対する支援は四九六件、実習件数は三十七件、就職件数は三十二件となっています。

当センターの基本姿勢は、障害者支援では、リフレミングの考え方です。リフ

レーミングとは、一見すると弱点だと思われる特性が見方を変えると強みに変わるといえるものです。例えば、①気が弱い↓優しく人に配慮ができる。②仕事が遅い↓慎重で丁寧。③怒りっぽい↓熱血漢でエネルギーが豊富。適職探しのヒントになることが多々あるので、大切な考え方だと感じています。一方、企業に対しては、根強く残る障害者への偏見や無理解を軽減するために、企業訪問による啓発運動、障害者を伴った職場見学、職場実習などを行っています。

最後に、前記のとおり障害者と企業双方への支援をしています。双方への配慮を忘れずに支援のプロセスを大事にしています。そして、単に就職に支援をするだけでなく、最終目標を「人と人が支え合う共生社会の実現」として、地道な努力を根気よく続けていくことが重要だと考えています。これからもご協力の程よろしくお願致します。



あすなろ祭 花咲かじいさん (ベイシア文化ホール 3月)



地域支援セミナー 石川 京子氏 (1月)



職場研修旅行 エイブルアートカンパニー(東京 11月)



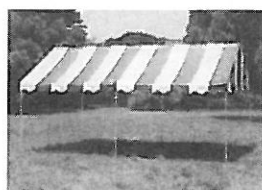
東朋会 清掃ボランティア (11月)

沢山の善意

あすなろ祭

(平成22.10.15-23.3.31) (順不同・敬称略)

- 金井 澁 六本木勝・美智子
- 群馬県蒟蒻協同組合
- 下栗須老人クラブ
- 藤岡市社会福祉協議会
- 荻野元彦 高橋きみ江
- 杉田典子
- 小野地区民生児童委員協議会
- 東朋会の皆様
- テレビ一台
- 藤岡市立東中学校生徒会
- より資源回収収益金より
- イベント用カラーテント三張
- 上毛新聞厚生福祉事業団
- 「愛の募金」より



編集後記

新聞の「いま伝えたい、被災者の声」を毎日読んでいます。震災から2ヶ月経ちました。一時帰宅で、菜の花の種を畑に播いてきた「と。花が咲くことを祈っています。」 (N・S)